2026　年度 授業計画(シラバス)

学　　科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名	成人看護学実習Ⅰ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	90　(2)　時間(単位)
対 象 学 年	2年次		学期及び曜時限	前期	教室名	各実習施設
担 当 教 員	伊藤裕子 他	実務経験とその関連資格	総合病院で看護師として勤務、がん化学療法看護認定看護師の経験あり			

《授業科目における学習内容》

慢性の健康障がいを持つ対象の発達段階をふまえて、身体的・心理的・社会的側面から理解する。また、患者およびその家族に対して、生涯にわたり生活の再調整・維持に向けた看護援助について学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

1)実習評価は実習日数の3分の2以上を出席したものを対象とする。 2)評価は実習の全ての経過を対象とし、評価表に基づいて行う。
3)実習目標の達成状況ならびに以下のことを踏まえ総合的に評価を行う。
①実習出席状況　②事前学習　③実習記録　④実習態度

《使用教材(教科書)及び参考図書》

①系統看護学講座 成人看護学1　成人看護学総論　医学書院
②系統看護学講座　成人看護学5　消化器　医学書院
③系統看護学講座　成人看護学6　内分泌・代謝　医学書院
④系統看護学講座　成人看護学8　腎・泌尿器　医学書院
⑤国民衛生の動向 厚生労働統計協会
⑥看護技術がみえる2　臨床看護技術　メディックメディア
その他各テキスト

《授業外における学習方法》

実習前の事前課題、追加学習に取り組む

《履修に当たっての留意点》

実習要綱を熟読し実習準備を十分にしておいて下さい。

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
1日目	実習形式	授業を通じての到達目標	・病棟の構造と機能、週間予定、日課などの情報を収集することができる。 ・病棟オリエンテーションを踏まえ、患者の入院環境と患者像を理解することができる。 ・受け持ち患者とのコミュニケーションや観察、記録から情報を収集することができる。	病院資料	事前課題、成人期の特徴について学習する。
		各コマにおける授業予定	1)病院・病棟オリエンテーション　2)受け持ち患者紹介、挨拶、説明と同意　3)看護師に同行して援助の見学　4))担当看護師や受け持ち患者とのコミュニケーションを通して情報収集、情報の整理　5)カンファレンス		
2～6日目	実習形式	授業を通じての到達目標	・健康障害が対象の生活やセルフケア能力へ及ぼす影響を考えながら、看護援助を見学または実施することができる。 ・実施した看護を評価・修正することができる。 ・実習前半を振り返り、自己の課題を明確にし、後半の実習に臨むことができる。	各テキスト	疾患、検査・治療、看護、看護技術について学習する。
		各コマにおける授業予定	1)行動計画発表　2)看護師に同行して援助の見学、実施　3)日常生活援助の見学や実施、コミュニケーションを通して情報収集、情報の整理　4)実施した看護援助をSOAPで記録　5)看護問題・看護計画の発表　6)中間評価(実習6日目)　7)カンファレンス		
7～8日目	実習形式	授業を通じての到達目標	・健康障害が対象の生活やセルフケア能力へ及ぼす影響を考えながら、看護援助を見学または実施することができる。 ・実施した看護を評価・修正することができる。	各テキスト	疾患、検査・治療、看護、看護技術について学習する。
		各コマにおける授業予定	1)行動計画発表　2)看護師に同行して援助の見学、実施　3)日常生活援助の見学や実施、コミュニケーションを通して情報収集、情報の整理　4)実施した看護援助をSOAPで記録　5)カンファレンス		
9～11日目	実習形式	授業を通じての到達目標	・看護実践や看護場面の見学から、生活の再調整・維持に向けた看護を学ぶことができる。 ・実施した看護を評価・修正することができる。	各テキスト	慢性期の継続看護について学習する。
		各コマにおける授業予定	1)行動計画発表　2)看護師に同行して援助の見学、実施　3)日常生活援助の見学や実施、コミュニケーションを通して情報収集、情報の整理　4)実施した看護援助をSOAPで記録　5)カンファレンス		
12日目	実習形式	授業を通じての到達目標	・慢性的な健康障害を有している患者の、QOL向上に向けた援助について具体的に考え、実施することができる。 ・実施した看護を評価・修正することができる。 ・看護について自己の考えを述べることができる。	各テキスト	追加学習に取り組む
		各コマにおける授業予定	1)行動計画発表　2)看護師に同行して援助の見学、実施　3)実施した看護援助をSOAPで記録　4)最終カンファレンス　5)実習記録の整理		